

たけのこだより

京都市立竹田小学校
校長 大西 一幸

平成30年10月

平成30年度 前期学校教育アンケートの結果を振り返って

保護者の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は本校教育活動にご理解・ご協力いただき誠にありがとうございます。夏休み前にご協力いただきました学校評価の結果をまとめましたので、お知らせします。お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。

学校教育目標『夢に向かって輝く、竹田っ子 ～「夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子」をめざして～』を具現化するために、昨年度より学校や家庭で大切にしたいことを児童・保護者・教職員がそれぞれ自らをふりかえることができる項目・内容をたずねる形式で実施しています。

学校教育アンケート（児童・保護者・教職員）の結果
※重要度は「重要である」「やや重要である」を合わせた数値、
実現度は「よくできている」「大体できている」を合わせた数値

質問項目	保護者重要度	教職員重要度	児童実現度	保護者実現度	教職員実現度
1 授業にまじめに取り組む、話をしっかり聞いたり、発表したりしている	98%	100%	85%	73%	88%
2 友だちと協力して勉強している	97%	100%	90%	82%	75%
3 家で必ず宿題や自主学習をしている	99%	100%	93%	85%	87%
4 本をよく読んでいる	98%	100%	81%	52%	87%
5 まわりの人にすすんであいさつしている	99%	100%	87%	80%	100%
6 約束やきまりを守っている	100%	100%	90%	90%	100%
7 早寝早起きをし、ごはんをしっかり食べている	99%	100%	92%	79%	88%
8 スポーツや外遊びで、からだを動かしている	95%	100%	90%	73%	56%
9 友だちとなかよく遊んでいる	98%	100%	95%	95%	87%
10 家の人とよく話している	100%	100%	96%	93%	81%
11 困ったときは先生に相談している	97%	100%	77%	81%	88%

※グラフのポイントは、
実現度「よくできている」「大体できている」を合わせた数値

重要度の集計結果から

【保護者・教職員のみ】

保護者の方は、全項目で95%から100%の重要度でした。質問項目③家庭学習についての質問で、29年度後期の58%から大きく重要度が上がっています。学習の定着を図るためには家庭学習が重要です。家庭学習について今後も共に考えていければと思います。教職員は、全項目とも100%でした。

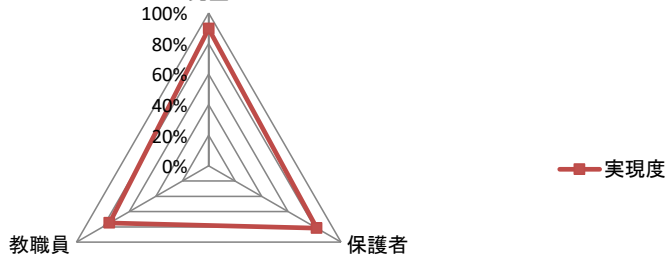
実現度の集計結果から

児童の実現度では、29年度後期結果とほぼ同様でしたが、質問項目⑤「あいさつ」で7%上がっており、⑪「先生に相談」で6%下がっていました。

保護者の実現度では、29年度後期と比較して質問項目③「家庭学習」9%、⑥「約束やきまり」31%、⑨「友だちと仲よく」16%、⑩「家の人と話す」12%と大きく上がっており、④「読書」20%、⑧「外遊び」12%下がっていました。

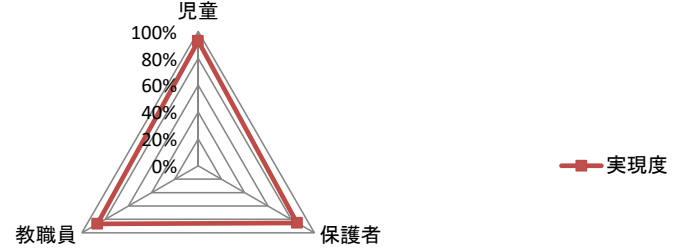
教職員の実現度では、⑧「外遊び」の項目で56%となっていました。その他の項目では概ね80%以上となっていました。29年度後期との比較では実現度が下がっていました。

新項目 ②友だちと協力して勉強している



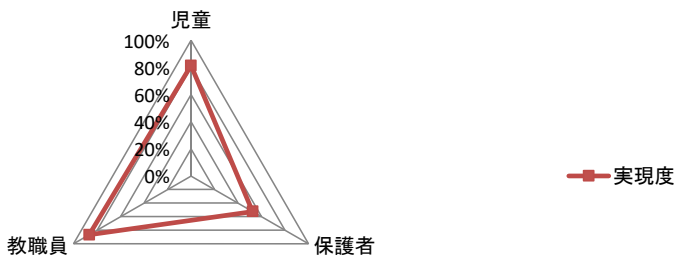
子どもたちが自身と友だちなど他者との対話を通して、意見や考えを交流させることにより、深い学びの実現ができます。そのためには普段から「自分の考えを安心して発表できる」「友だちの意見をきちんと受け止める」などの基盤をつくり、友だちと協力して学習する環境を整えていこうと思います。

③家で必ず宿題や自主勉強をしている



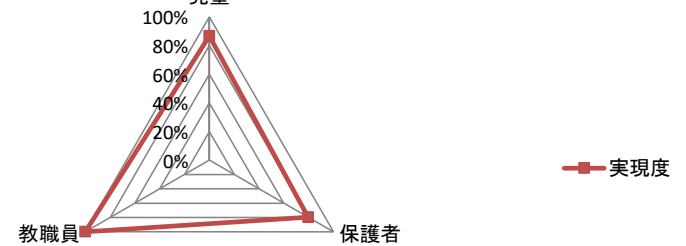
保護者の回答では重要度が41%、実現度が9%上がっていました。児童回答の詳細を見ると、「よくできている」が76%、「大体できている」が17%となっており、「よくできている」「大体」を合わせた数値は前回調査とほぼ同じですが、今回「よくできている」が76%と全体の3/4を超えています。保護者回答の重要度の大きな変化が押し上げていると思われます。

④本をよく読んでいる



朝読書の時間をはじめ、休み時間等で「本」と接する時間をもっている児童は多いです。また、図書委員会の取組みや本の会、学校司書の働きかけで、本を手にとることや、図書館の利用も増えてきています。今年度、図書館の隣の教室を第2図書館として配置し、調べ学習など実施しやすい環境を整えています。「本」は身近な存在であり、本と関わるのが一つの読書活動であるという認識を広げていければと思います。

⑤まわりの人にすすんであいさつをしている



前回から、保護者の重要度が100%に近づき、保護者の働きかけが児童の実現度の7%上昇につながっていると思います。また、児童の約50%が「よくできている」と回答しています。声の大きさにあらわれていないこともあるかもしれませんが、子どもたちから始まるあいさつの姿が増えています。引き続き、気持ちのいい声かけを進めていきたいと思います。

自由記述欄から

(いただきました全てのご意見は教職員全員で共有しております。)
「子育て・就寝時刻」「家庭学習の習慣化」「ホームページの更新」「自主学習の内容」「子どもたちの行動」「安全面」など、ご意見やご指摘を真摯に受け止め、今後の教育活動に活かしていきます。

学校運営協議会理事会より

子どもたちのあいさつが課題であると感じる。そのためにも、大人が様々な面でいい見本となっていかなければならない。見守り活動や近所での声かけを引き続きしていくので、あいさつが広がっていけばいいと思う。また、安全面についても、家庭・地域・学校で協力していきたい。

学校教育アンケート全体を通して

昨年度のアンケートから自己評価する形式となりました。保護者アンケートの記述から、「子どもへの関わり方、働きかけを振り返るいい機会となりました。」という感想や「声かけの仕方が難しいです。」といった課題についての記述もいただきました。本校で実施している「ほっこり子育て広場」などで、子どもたちへの関わり方などについて交流し、子どもたちの理解とともに働きかけについても一緒に考えていければと思います。

昨年度後期のアンケートを受けて、保護者アンケートの重要度の大きな変化が保護者・児童の実現度に結びついていると思われる。教職員については、児童の実現する姿のための働きかけとして「もっと有効な手立てがあったのではないか」といった振り返りを行っています。今後も家庭と学校とが連携し、子どもたちを見守っていければと考えています。